

令和6年1月22日(月)

## グランマ・モーゼス

モーゼス婆さんの愛称を持つアンナ・メアリー・ロバート・モーゼス(1860—1961)は75歳から油絵を描き始め101歳で亡くなるまでに1,600点の作品を残しました。それらの絵はルーブル近代美術館をはじめ、世界中のたくさんの美術館に収蔵されています。

モーゼス婆さんは一生の大半を農場で生活しました。ニューヨーク州の農家の10人兄弟の長女として生まれましたが、家が貧しく小学校にはほとんど通えていません。結婚して10人の子どもを生み、農家の主婦として忙しい毎日を送りました。彼女が67歳の時に夫が亡くなり70歳を迎えると農場を息子に任せ、少し暇が出来たので毛糸の刺繍絵を始めました。75歳を過ぎると長年の疲労と慢性のリューマチで刺繍針を動かすことが困難になりました。

75歳を過ぎ妹から勧められて油絵を描き始めました。「絵を描くことは暇つぶしと自分で楽しむため」だった彼女の絵は、78歳の時に一人の偶然訪れたアマチュア・コレクターに気に入られ、翌年にニューヨーク近代美術館で彼女の作品が展示されました。その後、モーゼスお婆さんが80歳の時には人気画家となりました。

彼女の作品は四季折々のアメリカの畑、山、川、家など自然の風景と、大勢の人や家畜、犬や猫などが描かれ見る人にやさしいぬくもりを与えてくれます。有名になってからも彼女の暮らしは昔と変わらず質素でした。アトリエも持たず古い松材のテーブルの上に新聞紙を広げて絵を描き、空のコーヒー缶を絵の具入れに利用しコールドクリームの空き瓶を筆すすぎに使っていました。

カード製作の大手、ホールマーク社は「モーゼスお婆さんのクリスマスカード」を3,500万枚以上も売り、彼女の作品は今でもアメリカを初め世界中の人々から愛されています。

70歳代後半になって本格的に絵を描きはじめ、101歳まで生涯現役で1,600点もの作品を残し、その作品が世界一流の美術館に収蔵されているのです。

皆さんは、「モーゼスさんはもともと絵の才能がある特別の人で私たち凡人には関係ない」ととらえますか？それとも、「モーゼスさんのことを知り、自分の可能性を見つけ挑戦していく元気が出た」ととらえ、挑戦していきますか？